

第3 問題作成部会の見解

日 本 史 A

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領日本史A 2 内容(2)「開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる」及び(3)「第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる」について、「近現代の日本の対外関係」というテーマを設定したリード文を掲げ、幕末開港から戦後の貿易自由化までの日本史の貿易・産業や政治外交に関する基本的事項の理解や史料・図表の読解力を問うことをねらいとした。本問の三つのリード文については、「貿易・経済のしくみやその展開について日ごろその様子を見聞きし考察する機会は多いとは言えず、大半の高校生にとって（あるいは授業者においても）具体的な理解を得るのはそう容易でないかもしれない。その点において、A～Cの各リード文はしくみや展開を簡潔にわかりやすくまとめており、近現代日本の貿易や経済を学ぶ際の良質なガイドとして活用できる」と高く評価された。難易度については、概ね標準的であった。

第2問 学習指導要領日本史A 2 内容(2)ア(7)「近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる」及びア(イ)「条約改正や日清・日露戦争前後の対外関係の変化、政党の役割と社会的な基盤に着目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる」という点を踏まえ、江戸から東京への変化に関する出題を行った。天皇行幸の錦絵を題材にしつつ、幕末・明治の政治史と外交史、文化史など多岐にわたる出題を心掛けた。難易度については、概ね標準的であった。

第3問 学習指導要領日本史A 2 内容(2)ア(7)のうち、「欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容、自由民権運動と立憲体制の成立に着目」して、明治政府の法令を軸にして出題した。またイ(7)のうち、「学問・文化の進展と教育の普及、大衆社会と大衆文化の形成に着目して、近代産業の発展と国民生活の変化について考察させる」に関して、杉浦非水の活動を軸にして出題した。日本の内政や文化にかかわる様々な史資料の読み取りを通じて、2 内容(1)にいう「歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる」という観点を意識させることを目標としている。本問については、「リード文や多彩な史資料（法令、論評、議会の議事速記録、政治家の議会演説、ポスター、本の装丁）は、近代日本における印刷・出版の展開

を見通す概説になっており、ここから得られる学びも多い」であろうと、さらに「知識を問う問題とともに、資料活用や思考判断の観点を問う問題と総合的な出題がなされた」と評価された。難易度については、概ね標準的であった。

第4問 学習指導要領日本史 A 2 内容(2)「開国前後から第二次世界大戦終結までの政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、相互の関連を重視して考察させる」及び(3)「第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる」について、リード文で近現代日本で多く制作された銅像の歴史を辿りながら、幕末から戦後にかけての、政治・外交や社会・文化に関する基本的事項の理解や史料の読解力を問うことをねらいとした。難易度については、概ね標準的であった。

第5問 学習指導要領日本史 A 2 内容(3)「第二次世界大戦後の政治や経済、国際環境、国民生活や文化の動向について、現代の諸課題と近現代の歴史との関連を重視して考察させる」に関連して、戦後の都市生活者の聞き取りメモをもとに、戦中から戦後にかけての人々の生活の変化やそれに関係する法制度・経済環境についての基礎的事項の理解や、史料や図、グラフなどの読解力を問うことをねらいとした。難易度については、概ね標準的であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

問題の程度については、「追・再試験は受験者が少なく平均点は公表されていないが、難易度から見ると概ね平易な出題であり、取り組みやすい試験であった」と評価していただいた。出題の内容については、史資料に「極端に難解なものではなく、脚注が丁寧に付され、丁寧に読むことで受験者が正確な判断ができるよう配慮されていた」、さらに「史資料の活用が今回においても重視されていることから、読解にやや時間を要したと思われるが、基本的事項の正確な理解や基礎的な力を問う問題が主体であり、分量・程度とも適切であったといえる」との評価もいただいた。

総括的には、今回の出題によって、「基本的事項の正確な理解や思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に合致するもので、受験者の培ってきた力や理解を概ね評価するのにふさわしい問題であった」との評価をいただいた。これは部会としても喜びとするところである。今後もこうした評価をいただけるよう継続して努力していきたい。ただし、資料を多く活用している半面、「視覚資料を用いた出題は2題（錦絵、ポスター）に留まり、文献に頼りがちな印象が拭えない」との指摘もいただいております、この点については次年度の課題としたい。

第1問

問1 日米修好通商条約の主要条項について、「領事裁判権」や「居留地」といった単語の暗記としてではなく、どのような意味をもつものであったかを理解できているかを問うた。

問2 幕末・明治期の貿易に関する問題。「グラフと表の読み取りと基本的な知識から判別は平易で、またその読み取りから変遷の背景も窺い知れる良問」と高く評価された。

問3 戦前日本の外貨問題の流れを問うた。「浜口雄幸内閣や、犬養毅内閣といった、各内閣における経済政策への正確な理解が求められた」と評価された。

問4 植民地との貿易について問うた。「植民地内の移出・移入と対外貿易の外貨の獲得の有無の関連性など、貿易のしくみを把握する必要がある問題であった」と評価された。

問5 戦時期の日本の物資や資源確保をめぐる動きを正しく理解できているかを問うた。

問6 戦後日本の貿易環境について問うた。「史料は読み取りやすく、また中华民国(国民政府)との外交交渉に関する出題も昨今の国際情勢に照らして興味深い」と評価された。

問7 戦後における日本の貿易の自由化の流れが理解できているかを問うた。「基本的な理解

を問う良問」と評価された。

第2問

問1 ペリー来航以後の状況を問うた。「時期を特定しやすくなる事件名などの歴史用語を避けた記述により、易しすぎず難しすぎない難易度に落ち着いている」と評価された。

問2 徳川慶喜による「大政奉還の上表」を題材に、史料読解の技能および大政奉還に関わる歴史的事象の知識を問うた。「適切な難易度である」と評価された。

問3 明治初期の条約改正交渉の過程, および日清修好条規について問うた。「基本的な知識を問う設問」と評価された。

問4 1868年の天皇の東京行幸を題材として、史料と錦絵を読み解く技能などを問うた。「分野を跨いだ理解が問われている」、「時代を跨いで必要な知識を引き出す力が求められている」と評価された。

第3問

問1 明治政府の法令に関連する人物と事項についての問題。反乱とその発生地、制度とその中心人物の組合せはどれも基本事項であり、「組合せはどれも基本事項である」と評価された。

問2 民撰議院設立の建白書を評した論考の問題。「論考は読み取りやすく、『明六雑誌』の特徴も基本的な知識である。両問ともに答えるのは易しい」と評価された。

問3 『衆議院議事速記録』とその説明文に関する問題。「自由民権運動から初期議会の流れを踏まえて容易に答えられる」と評価された。

問4 明治期から大正期にかけての日本画・洋画についての問題。「教科書で扱う範囲内として十分に答えられる」と評価された。

問5 戦前期までの状況を問うた。「1910・1920・1930年代の状況を表す思想・運動をバランス良く取り上げ、その時代背景とともに考えさせる質の良さを備えている」と評価された。

問6 犬養毅の議会演説に関する問題。現代語でまとめた演説の大意は読み取りやすく、「正誤の判別は易しい」と評価された。

問7 杉浦非水らポスターに関する問題。ポスターに掲載された様々な情報を活用し、「史資料の読み取りを踏まえた近年の出題傾向が見て取れる」と評価された。

第4問

問1 明治・大正期の政治と美術についての知識を問うた。

問2 新聞記事を用いて、明治後期から大正期にかけて発生した出来事を問うた。「史料特定から時代整序という二段階の力が要求された」と評価された。

問3 史料を用いて、幕末の政治状況について問うた。「明治以降も評価が変化する井伊直弼を基にした史料の提示など大変興味深い」と高く評価された。

問4 新聞記事を用いて、史料の読解力と明治・大正期の政治について問うた。「板垣の首相経験の有無など、選択肢をしっかりと見定める力が求められた」と評価された。

問5 戦時期の社会・経済状況や国際関係について問うた。「当該期の市民生活に関する理解とともに、前後の時代の政策や内閣などに関する正確な知識が求められた」と評価された。

問6 昭和期の政治・社会の状況について問うた。「大正期の内閣の外交政策に関する理解とともに、史料内容に関しての把握が求められた」と評価された。

問7 戦後の科学技術や社会状況についての知識・理解を問うた。

第5問

問1 昭和恐慌に関して問うた。「基本的な知識で容易に答えられる」と評価された。

問 2 敗戦後の労働に関する出来事について問うた。「前後関係を踏まえた正確な『ながれ』に対する理解が求められた」と評価された。

問 3 史料を基に、敗戦直後の都市生活に関して、どのような問題が生じていたのかを問う問題となっている。

問 4 戦時下において、どのような生活を強いられていたのかを問うた。「基本的な知識・理解を用いて容易に答えられる」と評価された。

問 5 1960年代に社会に影響を与えた出来事について問うた。「基本的な知識・理解を用いて容易に答えられる」と評価された。

問 6 1960年から1975年にかけての経済・社会を問うた。「グラフは読み取りやすく、基本的な知識・理解があれば正答が得られる」と評価された。

問 7 高度経済成長下で住宅の間取りを問うた。「離れた時期の間取り図を比べ、その変化の要因を窺わせる史料も踏まえて考察させる良問」と評価された。

4 ま と め

本部会は従来からの作問上の留意点として以下の4点を挙げてきた。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、標準的な問題を作成するように心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。
- (4) 「日本史 B」との共通問題について、難易度に一層配慮する。

今回までの共通テストでの知見の蓄積を活用し、ご指摘いただいたことも踏まえ、引き続き問題作成を行っていきたい。

日 本 史 B

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 全体のテーマは、学習指導要領日本史B 1目標に「我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」とあること、また2内容(1)ア「遺跡や遺物、文書など様々な歴史資料の特性に着目し、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ、歴史への関心を高めるとともに、文化財保護の重要性に気付かせる。」、(2)ア「歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる」とあることを踏まえ、現在につながる盆踊りや風流踊りなどの祭礼に関わる絵画資料や文献史料を通して、日本史や日本文化についての理解と思考を具体的に問う設問を用意した。場面設定は、課題研究を進める高校生二人が現代から時代をさかのぼりながら集めた資史料を整理するなかで、歴史の流れや因果関係を理解するとともに、歴史的事象を身近な問題として主体的、批判的に考察する姿勢の形成を促すことを意識した。難易度については、概ね標準的であった。

第2問 学習指導要領日本史B 2内容(1)「原始・古代の日本と東アジア」を踏まえて作問した。アのうち、「資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ」ること、イのうち、「古代国家の形成と展開、文化の特色とその成立の背景について考察させる」ことを目的として、弥生時代から平安時代にかけての墓・葬儀のあり方の変化と、その背景となる各時期の政治・社会・文化のあり方について、古代日本に関する基本的な知識を踏まえつつ、思考力・判断力・表現力等を問うことをねらいとした。問題の難易度については、概ね標準的であった。

第3問 学習指導要領日本史B 1目標に示された「我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察」を意識するなか、2内容(2)アのうち、「歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察する」及びイのうち、「中世国家の形成過程や社会の仕組み」、ウのうち、「日本の諸地域の動向、日明貿易など東アジア世界との関係」について考察することを踏まえ、史料の読解に重きを置きつつ、中世の政治体制と諸地域との関係や地域の自立的動向に注目しながら、各時代の政治・社会・外交についての理解を問うた。「中世の日本列島の様子について調べた高校生の班活動の内容を基に、中世の政治・社会、外交について」問う問題と評価された。難易度については、概ね標準的であった。

第4問 学習指導要領日本史B 2内容(3)「近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関

連付けて考察させる」ことを踏まえた問題である。その中でも特に「幕藩体制下の農業など諸産業や交通・技術の発展」を考察させるため、当該期の代表的な農書（図像）を取り上げた。史料から読み取った情報や習得した知識を活用し、歴史的事象の背景・原因・影響を探り、近世日本の経済・社会・政治に関する総合的理解と、思考力・判断力・表現力等を問うことを意図した。「近世の政治，社会・経済，文化について幅広く出題された」と評価された。難易度については、概ね標準的であった。

第5問 学習指導要領日本史B 2 内容(4)ア「開国と幕府の滅亡，文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化，自由民権運動と立憲体制の成立に着目して，明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察させる」という点を踏まえ，江戸から東京への変化に関する出題を行った。天皇行幸の錦絵を題材にしつつ，幕末・明治の政治史と外交史，文化史など多岐にわたる出題を心掛けた。難易度については，概ね標準的であった。

第6問 学習指導要領日本史B 2 内容(4)「近代国家の形成と社会や文化の特色について，国際環境と関連付けて考察させる」，(5)「近代国家の展開と社会や文化の特色について，国際環境と関連付けて考察させる」及び(6)「現代の社会や国民生活の特色について，国際環境と関連付けて考察させ，世界の中での日本の立場について認識させる」を踏まえ，リード文で近現代日本で多く制作された銅像の歴史を辿りながら，幕末から戦後にかけての，政治・外交や社会・文化に関する基本的事項の理解や史料の読解力を問うことをねらいとした。難易度については，概ね標準的であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

出題の内容・分野については、「全体的に分野や範囲，難易度の適切な出題」であり、「これまでに改善をお願いしてきた，日本史の知識なくても正解できるような設問が見られなかった点は評価したい」との評価を得た。問題の程度については，「学習指導要領が求める資質・能力におおむね適しており，歴史的な背景や意義などの体系的な内容の理解を求める問題や，史資料から必要な内容を読み取る技能を測る問題がバランスよく配置され，おおむね適正であった」との評価をいただいた。総括的には，「各大問のテーマが身近な歴史と結びつくものが多かった」，「文字史料の分量や扱いが配慮されており，解答の判断がしやすくなる工夫がなされていた」との評価をいただいた。これは部会としても喜びとするところである。今後もこうした評価をいただけるよう継続して努力していきたい。

一方で，「昨年と比べると，絵図や図表・グラフ，現物資料などの史資料は減少した」，「本試験や昨年度の追・再試験にあった，グラフ等の統計データの読み取りはなかった」との指摘もいただいた。活用する資料の多様性については，部会として改めて議論したい。時代については，「今年度は本試験と同様，考古学の分野からの出題もあり，適切な範囲設定であった」との評価を得た。出題する時代の均衡については，次年度も引き続き配慮する。

第1問

問1 江戸時代末期から昭和初期までの問題。「近代の大衆文化におけるマス＝メディアの発達や，近世からつづく民衆の娯楽に関する基本的な知識が問われた」と評価された。

問2 1920年代半ばから30年代半ばまでの出来事についての問題。「受験者に史料をひたすら暗記するような学習を求めないよう配慮されている」と評価された。

問3 江戸時代の社会状況の問題。「図中の人々の様子からの読み取りや史料の比較によって，祭礼・行事に対する幕藩領主の政策の特色を読み取る技能が求められた」と評価された。

問4 中世の宗教についての問題。「図中の人々の様子や史料から必要な情報を読み取る技能

や、鎌倉新仏教に関する基本的な知識が求められた」と評価された。

問5 古代の信仰や祭祀についての知識・理解を問う問題。「縄文時代と古墳時代の人々の生活と信仰に関する基本的な知識が求められた」と評価された。

問6 古代から現代につながる祭礼について、思考力・判断力・表現力等を問うた。「用語の暗記ではなく内容を理解しているかが問われる良問」と評価された。

第2問

問1 6世紀における古墳のあり方の変化について問うた。「弥生時代から古墳時代にかけての墓制の特徴の変化に関する基本的な知識が求められた」と評価された。

問2 6～7世紀の墓・葬儀に関係する出来事を取りあげた問題。「文章から歴史的事象を判断する技能と、その事象の年代に関する知識が求められた」と評価された。

問3 日本と唐の令の条文を比較して活用する問題。「史料から必要な内容を読み取る技能と、日本の律令国家が唐を模範していたことへの基本的な理解が求められた」と評価された。

問4 摂関政治についての思考力・判断力・表現力等を問うた。「受領の成功について史料から読み取る技能と、摂関政治と太政官制の関わりについての正しい理解が求められた」と評価された。

問5 古代の墓・葬儀のあり方について総合的に考察する力を問うた。「古代の政治・外交・文化の様々な分野にわたる総合的な知識が求められた」と評価された。

第3問

問1 鎌倉幕府の成立についての理解を問うた。「史料の読み取りから歴史的事象を判断する技能と、その事象の年代に関する正確な知識が求められた」と評価された。

問2 建武政権と室町幕府の地方支配体制について問うた。「南北朝・室町時代に関する基本事項が問われている」と評価された。

問3 一揆契諾状に関する史料を活用する問題。「中世の一揆の慣習に関する理解と、史料から読み取ることができる内容を関連付けて考察する思考力・判断力・表現力等が求められる良問」と評価された。

問4 中世の蝦夷島とその周辺での交易やアイヌの歴史についての理解を問うた。「読み取りしやすいうように原史料を大意訳する配慮がなされていた」と評価された。

問5 琉球の問題。「史料と表から必要な情報を読み取る技能と、中継貿易の知識を前提に、読み取った情報を関連付けて考察する思考力・判断力・表現力等が求められた」と評価された。

第4問

問1 近世の社会・経済についての思考力・判断力・表現力等を問うた。「江戸時代の開発に関連して政治分野の知識も問う設問」と評価された。

問2 近世の社会・経済・文化についての問題。「江戸時代中期以降の諸学問の発達に関する基本的な知識が求められた」と評価された。

問3 近世の農業に関する問題。「絵画の読み取り問題で、肥料や、入会地の利用法、といった知識があれば解答しやすい」と評価された。

問4 幕府の治水政策の問題。「国役の仕組みや、国役の負担が百姓に求められた社会背景などへの理解が深まる良問」と評価された。

問5 18～19世紀の森林利用・保護の問題。「山林の過剰な開発が与える影響や、藩の山林の保護政策などについて、史料から必要な内容を読み取る技能が求められた」と評価された。

第5問

問1 ペリー来航以後の状況を問うた。「時期を特定しやすくなる事件名などの歴史用語を避

けた記述により、易しすぎず難しすぎない難易度に落ち着いている」と評価された。

問 2 徳川慶喜による大政奉還の上表を題材に、史料読解の技能および大政奉還について問うた。「適切な難易度である」と評価された。

問 3 明治初期の条約改正交渉の過程および日清修好条規について問うた。「基本的な知識を問う設問」と評価された。

問 4 1868年の天皇の東京行幸を題材として、その時期の政治と文化を問うた。「分野を跨いだ理解が問われている」、「時代を跨いで必要な知識を引き出す力が求められている」と評価された。

第 6 問

問 1 明治・大正期の政治と美術について問うた。「大日本帝国憲法と明治の彫刻家に関する基本的な知識が求められた」と評価された。

問 2 明治後期からの出来事を問うた。「人名や歴史用語のみで年代を判断するのではなく、複数の読み取った内容を組みあわせて年代が判断できる良問」と高く評価された。

問 3 幕末の政治状況について問うた。「人物の評価が時代や土地柄によって変わることを示す事例として興味深い史料であった」と評価された。

問 4 史料の読解力と明治・大正期の政治についての理解を問うた。「史料から必要な内容を読み取る技能と、明治末年の政党に関する基本的な知識が求められた」と評価された。

問 5 昭和戦時期の社会・経済状況や国際関係についての知識・理解を問うた。「戦時期の政治・外交政策や経済統制の影響などに関する知識が求められた」と評価された。

問 6 昭和期の政治・社会状況について問うた。「寺内正毅内閣の外交政策に関する基本的な知識と、史料から必要な内容を読み取る技能が求められた」と評価された。

問 7 戦後の科学技術や社会状況について問うた。「高度経済成長期の社会の変化に関する基本的な知識が求められた」と評価された。

4 ま と め

本学会は従来からの作問上の留意点として以下の 4 点を挙げてきた。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、標準的な問題を作成するように心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。
- (4) 「日本史 A」との共通問題について、難易度に一層配慮する。

今回までの共通テストでの知見の蓄積を活用し、ご指摘いただいたことも踏まえ、引き続き問題作成を行っていきたい。